

記録に残る 記憶に残る 部活動

来週6月1日より全ての県立高校が一斉登校など平常の教育活動に移行することとなりました。これも十分な感染症対策を行った上での移行となりますが、4月20日(月)から始まった臨時休業は5月24日(日)までほぼ1ヶ月間続き、5月18日(月)からは臨時休業でありながら分散登校を進めるという対策をとりながら学校再開に向けて徐々にではありますが準備を進めてきました。そして、本校は5月25日(月)から登校日として、通常の授業を行ってきています。

この1ヶ月以上に及ぶ学校としてこれまで経験したことのない緊急事態の中では、臨時休業に向けて慌ただしく課題を準備する教員の姿や、休日に出勤して連休明けの対応や分散登校について対応を考えたり、オンラインによる授業を研究したり、不足するマスクや消毒液をどうするかなど、教職員・生徒共に工夫しながら、我慢しながら、協力しながら頑張っている様子が印象に残っています。

4月から6月に開催される予定だった体育系部活動の春季大会、中国予選・中国大会や県総体、文化系部活動の大会や研修会等ことごとく中止となり、3年生にとっては非情ともいえる結果となりました。3年間仲間と協力しながら努力し、積み上げてきたことが披露できず、悔しい思いをしている人がほとんどだと思います。

教育委員会は5月27日、部活動における今夏の全国大会等の中止に伴う代替案の検討を、高体連、高野連、高文連に対して依頼しています。感染症予防策等十分に行い、可能であれば3年生にとって最後の大会として記録に残るような手法を検討し、交流試合、記録会、勝負にこだわらない形での交流会の開催など様々な方法を模索してほしいといった内容です。高野連は夏の甲子園大会島根大会の代替大会を開催することを既に決定しています。感染リスクが大きい競技や活動は難しいかもしれませんが、「試合をしたいです」といって今日も部活動をしている3年生が、いい形で3年間の部活動が締めくくられるようにしてあげたいと願っているのは、私だけでなく全ての教職員の願いです。

